

<小学英語>

- ◆ 2020年より小3・小4で外国語活動（年35時間）、小5・小6で外国語（年70時間）開始。
- ◆ 4年間で600～700語程度の単語を扱う。
- ◆ 日本語と外国語の音声等の違いに気付く。
- ◆ 小3・小4では「聞く」「話す（やり取り／発表）」を通して、音声に慣れ親しむ。
- ◆ 小5・小6では「読む」「書く」を加えた5領域を通して、音声と文字とを結びつける。

移行措置対応

2018, 19年度は、移行措置対応か先行実施かを選択。
2018年5月時点で、全公立小学校において先行実施は約3割。

学年	移行措置対応		先行実施	
	小3・小4	小5・小6	小3・小4	小5・小6
授業時間	年15時間	年50時間	年35時間	年70時間
教材	Let's try!	We Can! もしくは Hi, friends!	Let's try!	We Can!

➡ 自治体や学校によって独自教材を使用する場合もある。授業時間、学習内容に差がある状態のまま、中学で新学習指導要領を迎える生徒がいる。

- ◎ 2020年以降、小3・小4はLet's try! を継続使用、小5・小6は検定教科書を使用する...

小3・小4【外国語活動】

- 活動内容例
 - [聞くこと]
 - ・ 英語を聞いて絵と結びつける活動
 - ・ 絵本の読み聞かせを聞いて、大まかな内容を理解する活動。
 - [話すこと]
 - ・ 気持ちや考えを伝え合ったり、質問し合ったりする活動。
 - ・ 写真を見せながら、身近なことや自分のことを話す活動。
- 評価について

顕著な事項がある場合、特徴を文章で記述する。
- ◎ 小3・小4で扱った表現に小5・小6でも繰り返し触れ、学年間の接続を図る...

小5・小6【外国語】

- 言葉の仕組みの理解を促す指導
 1. アルファベットの文字や単語の認識
(音声で慣れ親しんだ英語を書き写したり、リストから選んで自分のことを書いたりする。)
※単語を覚えさせる訳ではない
 2. 日本語と英語の音声の違いへの気付き。
 3. 語順の違い等の文構造への気付き

➡ 教え込みではなく、子どもが活動を通して自分で気付けるように指導を行う。
- 知識及び技能について

<新設>

 - ・ 音声（アクセント、イントネーションなど）
 - ・ 活用頻度の高い連語および慣用表現
(get up, look at / I'm sorry. など)

<中学から移行>

 - ・ アルファベットの大文字・小文字
 - ・ 代名詞を含む文 (I, you, 3人称の he, she)
 - ・ 活用頻度の高い動名詞 (running など)、
過去形 (went, ate などの不規則動詞)
 - ・ whose を除いた疑問詞、be 動詞, do, can, で始まる疑問文
 - ・ 文構造 (S+V+名詞/代名詞/形容詞)

➡ 中学から移行ではあるが、文法や用法を学習するための前倒しではない。
- 評価について

数値での評価となる。授業内のワークシート、発表、活動の観察から行われる。